残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(130号)
986-0801　宮城県石巻市水明北３丁目13番28号
TEL /0225-96-1497　Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座　02290-6-126186　口座名称　阿部　一
●代表／阿部　一　　●副代表／菊池せい子

信仰：自分の立つ位置を確認し

● 主の2019年、明けましておめでとうございます。

主の御栄光が現され、皆さまにとって恵み多い年となりますように、また災害のない穏やかな1年となりますように。今も困難な生活を送っておられる全国の被災者に勇気と支えが与えられるように祈ります。

● 巷では「平成」最後の年となるというので、5月からどんな新しい元号となるか」が話題となっています。国や市などから発行される証明書や書類などでは、「あの時は西暦2011年、平成では何年？」といつも悩まされ続けてきました。

● 世界中のどの国も西暦なのに、日本だけが「元号」を未だに用い続けている理由は、明らかに「天皇制」に基づく一世一元の制である。それも、天皇の崩御や今回の譲位などで、私たちの生涯の記憶が年号変更によって有無を言わせず分断されてしまうので、2通りの年号使用は不便と感じてきた。

● 公官庁書類が元号優先であるだけでなく、「君が代」法制化の時の説明は次第に風化し、公的行事で斉唱が強制力を持ち、さらに公教育に評価が伴う「道徳」教科の導入という一連の流れを考え、私はあの誤った時代への逆行を危惧しています。

● 日本のキリスト教界が、先の第二次世界大戦において信仰を曲げ、自発的に戦争に協力し、中国、韓国、東南アジア諸国のみならず世界の多くの国民に多大な苦しみを与えたという事実を、私たちクリスチャンは決して忘れてはなりません。

● 国土も破壊され、多くの日本人の命も奪われました。沖縄をはじめとしてその代償を押しつけられて今なお苦しんでいる地域と被害者がいる現実に目を閉ざすことはゆるされません。その責任の一端はキリスト教界であったことを、私たちは自覚し続ける責任があります。

● 「**あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ**」（マタイ22/39）という聖書の教えは、言い換えれば「**相手の立場に立って考え、行動せよ**」ということです。それには、先ず相手への関心が先立ちます。マザーテレサが「**愛の反対は無関心**」と看破したのは、これがまさにキリストの生き方とは真逆の原因であるからです。

● 世界の各地で、今「・・ファースト」が声高に叫ばれています。神から離れた人間の持つ罪の大きな性質「**自分が第一**」という**自己中**です。そして、これが全ての争いの根源です。

● 私たちが自分の目の前の有利・不利だけに心奪われていると、自分の立っている所さえ見失います。先の大戦の二の舞を踏まないように、自分の立っている位置を常に神の前で確認することを心掛けながら、信仰者としての新しい1年を始めたいと思います。平和な1年となりますように。

■ 先月の多くの恵みから

❶ 今年も、12/23のクリスマス礼拝を石巻山城町教会（関川祐一郎師）で合同礼拝として持たせていただきました。聖餐式とクリスマス祝会（何と「すき焼き」でのお交わり！）もご一緒させていただきました。

❷ 12/15に**3.11東日本大震災追悼記念会**の12月の準備委員会が宮城教会で行われました。大原師がクリスマスお祝いの昼食を準備して下さり、楽しいお交わりの後に細部にわたる計画の検討がされました。次年度のメイン集会が3/9に東松島Community Center、そして3/11は初めて女川のまちなか交流館で持たれます。今年の集会では、久米小百合さんと向日かおりさんが、3/11には救世軍　JSB　が特別のご奉仕をして下さいます。チラシとポスターも仕上がりました。最終的な準備のためと必要が経費が満たされるようにお祈り下さい。

❸ 12/12に、今年も博多のニューライフ教会の元菊枝さん・高原菊美さん・南里孝子さんの3名が**楽しい手芸の会**のためにクリスマス・リース作成の奉仕をして下さいました。終わっての楽しいお交わりに感謝しました。

❹ 12月には、多くの教会や皆さんから沢山のクリスマス・カードで励ましていただきました。また多くの献金やお菓子や果物の献品をいただき本当に有り難うございました。

❺ 12/24に「楽しい手芸の会」の**クリスマス会**を開き、1年間の製作で自分の気に入った作品を持って集まり、この1年の思い出や賛美、紙芝居、教会員の証しに加えて、美味しい軽食を頂きながら楽しい時間を過ごしました。

❻ 1/1の14:30より、石巻栄光教会（川上直哉師）で、石巻地域初めての**合同元旦礼拝**を持ちます。市内の教会が学び会の他にこのような集会が一緒にできることを神に感謝します。

❼ 12/22に、仙台のケアハウスに居られる柳沢京子姉を訪問しお交わりができました。

❽ 12/28で、佐久市の濱師より依頼された石巻の奥様の実家の片付けを終えることができました。

石巻より明けましておめでとうございます

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

① 今野かつ子さん/二平幸子さん/千葉真理子姉/Dei姉/新井李恵子姉の治療のために。② 石巻地区の各教会の働きのために。地域より求道者が起こされるように。③大平英秀さんのために④九州・西日本・北海道の被災者のために。⑤ 3.11**東日本大震災追悼記念会**の準備とそれに必要な経費が満たされるように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10：30-12：00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

1月　新しい年を迎えて

昨年の8月頃、孫たちの住む町へ出かけた時に詠んだものです・

写真屋のガラスの奥で微笑みを
　絶やさず少女はゆっくり黄ばむ

高層のガラスのビルとビルとビル
　あわせ鏡のごとく映し合う

今野　かつ子

明日の幸せは、今日をよく生きることから始まる。身も心も健やかに、年齢に生命の輝きを加えつつ、美しい人生を実らせたい。

● ＜祈りの要請＞「石巻祈りの家」の新しい年の歩みと地域から新しい真剣に求道する人が与えられるようにお祈りください。

2018/11月末～2018/12月半ばまでの教会活動の情報と地区教会活動との関わり

2019/3/11の3.11追悼記念会の案内チラシが完成しました

12/24楽しい手芸の会のクリスマス会

12/15オアシスCでの早天祈祷会

12/24柳澤姉を訪問して

12/23　今年も「クリスマス礼拝」は、石巻山城町教会で合同礼拝とすき焼きでの祝会もご一緒させて頂きました

12/15 3.11追悼記念会の準備委員会

12/12　元菊枝チームのリース作成

クリスマスを祝う手作りデコレーション

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在り

信仰の歩みの中で

答えられない40年間の祈り・・・が、

石巻祈りの家　　阿部　一

脳のCTscan細部まで診ていた医師が、「脳梗塞の陰もなく、血管もきれいですよ」と述べ、私の訴えている症状は現在の医学では対処法がないから、それを受け入れて過ごす他はないですね」と告げた。またも同じ診断である。この言葉は今まで何回聞いたただろうか。

加齢と共に、38才の時に遭った交通事故の後遺症が最近特に酷くなってきた。フロントガラスに歯が真ん中から裂ける勢いで打ちつけられ、その後での急ブレーキで衝突場所から30m近くも飛ばされて頭から田圃に突き刺さった。3ヶ月もぶよぶよに膨れあがった頭頂を氷で冷やす状態が続いた。

以前にもこの欄で書いたがその事故で7ヶ月も入院した。その後2年後に大学病院での精密検査でも同じことを告げられ、それ以来40年にわたる戦いの日々であった。整形外科や神経外科での診断で処方される薬はほとんど効かなかった。

その症状は、あの西遊記に出てくる喧嘩早い孫悟空を制するために頭に巻いてある輪「緊箍児」(きんこじ)が三蔵法師の言いつけを守らなかった時に締め付けられたと同じ。私の場合は、天気が悪くなる前の気圧変化や高温の外から冷房の効いた部屋に入るというような急激な温度の変化の際に現れる。針金で頭が締め上げられるようになって物を考えることができず、ひたすら耐えることしかない。寝ることでそれをどうにかクリアできることを経験で覚えたが、いつもそのような時間を取れるわけではない。この症状は追突事故で鞭打ち症となった人の共通の苦しみである。

その時、医師は何かを思い出したように私の家庭医が送ってくれた紹介状に付けてあった処方薬を見て「今あなたが服用している薬の1つを除いて試して見たい薬がある」と呟いた。そして、家庭医に返事を出しておくと約束された。

数日後に、定期の診断のために医院に行った時に、そのことを話した。家庭医は送られて来ていた返事を確認し、「さすが神経外科の専門家だ」と言って、「その処方を試してみよう」と処方薬を変えてくれた。

高齢になって、明らかに睡眠が浅くなり、夜に何度もトイレに起きるようなったために睡眠導入剤処方してもらっていたが、その1つを神経外科の推奨する物に替えてくれた。

それを服用して寝た翌朝、今までのような頭皮のしびれがないのに気付いた。しかし、2週間ほどの服用の中で、午後になるとまたわずかながら前の症状が戻ることに気づいた。そこでインターネットでその薬の一日の服用錠数を調べ、高齢者は3錠まで服用可能であることを知った。

次の診察の時に、家庭医にこのことを話して一日2錠にしてもらい、朝と午後3時過ぎに服用している。この薬はかなり以前からあったようだが私のような症状への投薬はなされていなかったようだ。完全ではないが、少なくとも私を40年間も苦しめてきた頭皮のしびれは大幅に軽減し、私が40年毎日祈り続けてきた長い苦しみから解放されたのである。

しかし、もっと早くこの薬に出会っていれば、もっと多くのことができただろうという思いが、現実には私の心にはある。しかし、この弱さがあるために、自分の力に頼らず、主の助けを祈りながら歩まざるを得なかった。その戦いの中で、耐えることの恵み、そして自分の周りの人達の愛の配慮への気づきの大切さを学んだ。40年の間答えられなかったこの苦しみの日々は、決して無駄ではなかった。この病の経験を通して学んだことの1つ1つを思い起こし、心から神に感謝している。

イスラエルの慰められることを長く待ち望んでいたシメオンや84才のやもめの預言者アンナを思い起こす。イエスが割礼を受け、母マリアと共にきよめの期間が過ぎた後に、両親がイエスを捧げるために宮に来た時にその願いは叶えられた。

一方でヘブル書11章に列記されている信仰者は「**この人々はみな、信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。**」（ヘブル11/39）と記されている。あのパウロさえも肉体の棘を取り除いて下さるように3度祈ったが、主からの答えは「**わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。**」（Ⅱ コリント12/9）であった。

自分の願いや祈りが聞き届けられることは感謝なことであるが、それは私たちにとって最善のこととは限らない。むしろ、神が答えられないところに自分の求めるものとは異なる神の配慮を明らかにして下さる。このことを信じ続けることの重要性を聖書は説いている。

「**苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。**」（詩篇119/71）